

“12月17日付き読売新聞第23面「静岡人」に紹介される” 2023.12.21(thu)

私事、読売新聞記者貞廣氏から12月12日(火)、約3時間の取材を受け、17日付同紙第23面の「静岡人」に紹介されました。確か2010年以来、同欄には2回目の登場のように思います。このところ静岡新聞に「不登校」関連の記事が掲載されており、それらの記事に対して以下に述べてきましたところの取材申し込みでした。

3時間の取材を見事にまとめてくれました。不登校、ひきこもりについて私たちは、その起因から解消を目論むのではなく、ひとり一人科学的に分析し、その心理的素因から解消を目論み、社会性を持った人間だから社会性が未成熟ゆえ、あるいは、社会性が阻害されて悩む不登校、ひきこもりを、社会性を育むことから解消してきた私たちの対応をまとめてくれました。ありがとうございました。

“不登校の子どもたちの「心理的素因からの解消」” 2023.12.16(sat)

九州大学医学部が1972年に日本で初めて心療内科(当時は「心身医療施設」の名称)を開設するにあたって導入した「交流分析」で、NPO静岡県教育フォーラムでは、対応した不登校の子どもたちのエゴグラムから、その「心理的素因」を、

1. AC(順応性)が異常に高い。即ち、自己否定感が異常に強く、周囲の視線、自分がどう思われているかを異常に気になっている。
 2. FC(感性)が低い。即ち、自分の感情を表に出せずに内に押し殺している。そのため、人間関係を築けない。
 3. CP(父性)が異常に低い。即ち、自尊感情も低く、年齢相応の行動、知識・技量を身に付ける、働いて生活する、同世代の仲間と群れ集うことに自分の行動を律することができずにひきこもる。
 4. 人との関わりがないためにNP(母性)も低くなるが、弟や妹がいたり、ペットを飼っている場合は、NPが高いこともある。
 5. A(知性)が低いために学力不振が不登校の素因にもなるが、逆にAが高いことが思い込みをもたらし、不登校の素因にもなる。従って、NPとAが不登校の素因になるのは個々による。
- と、捉えています。

従って、NPO静岡県教育フォーラムは、毎週その養育者のペアレントトレーニングに加えて、その子どもたちの週3回を基本のカウンセリングや、毎月の野外体験活動、長期休業時の国内外の交流合宿などで同世代の仲間たちと群れ集う中で、その子どもたちの社会性とCP(父性)・FC(感性)の成長と、A(知性)の正常化を目論み、不登校の解消、即ち社会的自立を果たすお手伝いをさせて頂いております。

“不登校の子どもたちの「抑えきれないイライラ」とは” 2023.12.13(wed)

学校へ行けずにいる小学生が「家にもイライラして気持ちを抑えられなくなる。そう

いう時テレビを見て思い切り笑う。すると少しだけ楽になる。」(静新「思春期の心 支える力」2023.12.10)

人間は社会性を持った動物であるが故に、人間と昆虫を比べることに抵抗を感じる方がいらっしゃるかもしれませんが、社会性昆虫のアリは、孤立させられるとストレスで寿命が短くなるように、「不登校」で子ども社会に入れなくなると、そのストレスで「イライラして気持ちを抑えられなくなる」。だからといって、「家にいてテレビを見て思い切り笑うと、少しだけ楽になる」ことを是認するのではなく、子どもが自然に子ども社会に入れる、その社会性を育む対応、カウンセリングをすべきである。それが我々の行うカウンセリングであり、自然体験や交流合宿である。

“「一斉教育の限界が来ている」(静新 2023.12.1 付け記事) に思う” 2023.12.1(fri)

箇条書き的に述べます。

「子どもの頃から生きづらさを感じた」その心理的原因は、生後から1歳半頃の間、親子の間で「基本的信頼感」が欠損したことである(「親から始まるひきこもり回復」舛田智彦著)から、私はその子の社会生活のためにはその改善を図るべきと考え、対応しています。

記事では「日本は個性重視の教育をうたいながら、実際はそうになっていない」と。確かに。私もホームスクーリングや飛び級、体験学習、個別化教育の制度化が急務と考えます。

運動会、合唱コンクール、部活動などの集団活動は、社会生活を営む上で必要な「協調性」「協力」を育み、「公平や平等」ではなく、競う「個人競技・活動」「集団競技・活動」により「自己を錬磨」し、「コミュニケーション力」が習得されることから、私は集団活動にも参加できるようにその改善を図るべきと考え、対応しています。

私は学校教育の「一律の教育」や「決まり事」を、「社会生活を営むうえで習得すべき最低の技量」と「社会生活を営む最低のルール」と捉え、改善すべきと考えます。

記事で言われている、「学校生活に不応適を起こす」「大きな集団が苦手なコミュニケーションがうまく取れない」「一斉に何かをすることに気持ちが付いていけない」ことを是認したままでは、子どもたちはいつまで経っても社会生活が送れません。私は、社会性を有する子どもたちゆえに、その社会性を育む同世代の仲間たちとの体験活動でそれらを改善するべきと考え、実践しています。

最後に、記事で言われるように、「学校に戻す」ことだけが不登校の解消ではありません。私は不登校の解消とは、子どもたちが自ら考え決断し、自ら決めた自分の将来像に向けて何らかの場で「最低の技量」習得等の学習を始めること、即ち「社会的自立」を果たすことと考えます。

“フリースクールに思う” 2023.11.26(sun)

11月24日付け静岡新聞の賛否万論で、常葉大学の太田正義准教授(教育心理学)は、「不登校は、学校教育からドロップアウトした子どもの教育を受ける権利が保障されてい

ない問題と言える。子どもの多様性に合わせて学校が変わるべきではないか。」と述べられた。

同記事で「児童生徒一人一人に合わせた個別的な対応で自己肯定感を高めていく点は共通している」フリースクールが、「予定を決めると、それに従って動かなければならないのでストレスになる」、あるいは、集団生活になじめない子どもの多様性に対応したカリキュラム(?)で教育し、そこで育った子どもたちが集団生活＝社会生活になじめないままで、今の実社会で生活していけるのか、私は甚だ疑問である。

その意味で、学校教育が目指す人間像、社会像が問われている。即ち、学校教育が、本来社会性を持った子どもたちが集団生活になじめないという多様性(?)に対応すべきなのか。あるいは、学校教育が目指すべき「画一化した」人間像、社会像を持つべきではないのか。それとも、学校教育は、本来子どもたちが持っている社会性を育む教育をすべきなのか。

私は 20 歳で起業して以来、子どもたちがその社会性故に、同世代の仲間たちの中で、群れ集い、成長する場を実現し、そこで数え始めて 243 名の子どもたちが社会的自立を果たすお手伝いをさせて頂いてきた。

“つれづれに思うこと” 2023.10.8(sun)

お陰様でこの夏の3か月の東進衛星予備校藤枝駅南口校の入学者が 21 名と、校舎も受験 勉強の熱気に溢れております。12 月の新年度を控え、ブースの増設も進めております。

そんな中で、昨年 2022 年の不登校の小中学生が過去最高の 299,048 人だったと、文科省が発表されました。2021 年より 5 万人以上増えております。

こうした状況を受け、県教委義務教育課が初めて開催した、「公的教育機関と民間施設等の連携推進事業第 1 回連絡協議会に私が呼ばれて参加いたしました。不登校の素因（自立不全、即ち、父性と感性の低さ、順応性の異常な高さ）からの解消を訴えてきました。

静岡新聞に連載中の蔭山昌弘先生も同じことをおっしゃってます。自立を支えるのは、自己肯定感（順応性は低くくなります）と自己主張力（父性）、協調する力（母性と感性）である、と。

はたまた中学生の虐待事例 2 件にも接し、その対応に少しばかり東奔西走していたしました。愛着不足を感じました。

一方で、仏典からふと見つけた「柔軟心」。自分を捨てた母も、早くに母親を亡くし孤独だった。そんな母を許す「柔軟心」が必要と、ある女性に送りました。

“西伊豆交流合宿、大成功に終える” 2023.5.8(mon)

僅かに 1 泊 2 日の合宿でしたが、目論んだ通りに実行できました！

まずは、行きのバスの中でのチームビルディングゲーム。学校生活での話題で、中学生がたった一人、他は 24 歳以上で、いつの間にか終えてしまう。

でも、天城でのパターゴルフ。これは、大変楽しく、素晴らしいアイスブレイクになりま

した。また、コースが面白かったです。途中に丘があったり、またその丘に穴があり、入るとグリーンに導いてくれる。絶壁もあり、球が戻される。狭いトンネルがあり、通らなければ、これまた戻される。。はたまた橋を渡らなければ、グリーンに行けず。結果、慎重派の大虎くんが、2位の順くんに1打差で優勝！

しかし、コロナ禍明け直前のGWだけに、伊東は大渋滞。なんと14時半過ぎ、ようやく昼食に。この失敗は、次回の合宿に活かさなければ。そして、16時半過ぎでも大室山のリフトは長々長蛇の列。諦めて、西伊豆町仁科の民宿ちからに向かいました。

あつつい温泉に浸かると、疲れが吹っ飛びました！そして、夕食。やはり「ちから」の海鮮料理はすごい！みんな大満足でした。もう20年来「ちから」さんにはお世話になってますが、参加者には毎回感謝されます。おばあちゃんの金目の煮つけもうまい！ありがとうございました。

そのあと、自然な流れで不登校やひきこもりについての話に。夜更けまでトコトン言い合いました。これが交流合宿のメインテーマ。詳細は省きますが、本音でぶつけ合う、有意義な内容でした。

眠い目で、これまた豪華な朝食。食べきれず、昨夜の揚げたカサゴも持ち帰る。そして、今回は堂ヶ島の波は穏やかで、遊覧は最高でした。そのあと、トリックアートも堪能。

駿河湾フェリーも、波も穏やかで、あっという間に清水港に。

たった1日で、参加者全員の心理テストが大きく変化！大成功に終わった交流合宿でした。

“本日の静岡新聞夕刊「不登校対策」に思う” 2023.3.24(thu)

その記事では、不登校の原因は百人百様で、何らかの「きっかけ」で個人の抱える問題が不登校という形で表れると言います。その原因を受験勉強や部活動、人間関係に求めています。

これまで240名の児童生徒の不登校解消を行ってきました経験から、私は不登校の原因としている受験勉強や部活動、人間関係は、不登校の「きっかけ」だと思います。不登校の素因は、交流分析で言えば、低い感性（FC）から自分の感情を押し殺し、異常に高い順応性（AC）から周りの目が異常に気になり（低い自己肯定感）、低い父性（CP）により年齢に応じた行動＝学校に通って勉強するに、自らを導けないと判断しています。

従って、私達はカウンセリングによって父性と感性とコミュニケーション能力を高め、不登校を解消させてきました。

“「メタバース」を使った不登校支援に思う” 2023.3.22(wed)

Room-Kに参加する小5の女子児童が「(アバターで)自分の顔が見えないので安心できる」からほぼ毎日ここで過ごすと言います。確かにあの世界のトヨタがメタバース上に“土地”を所有し、会社を構えています。メタバース上に現実の社会とは別の社会が存在してい

ます。

しかし、自分のアバターがメタバース上の Room-K を卒業し、メタバースの社会で労働し、賃金を得、生活できればいいでしょうが、現実の社会ではそれは不可能です。現実の社会では生身で人と関わる中で成長し、生きていくための技量を身に付け、生身の体で労働し、賃金を得て生活しています。

従って、そうした生活ができるように、それを阻害している心理的な素因を解消するのが不登校支援であり、そうしたカウンセリングでこれまでに 240 名の児童生徒の不登校を解消してきました。

“「数学不安」 — 「死に至る病」 (岡田尊司著) より” 2023.2.14(tus)

数学ができるかどうかには、数量処理や作動記憶といった認知能力のほかに、問題を解く際の不安が関わっている。この不安が「数学不安」である。

数学の問題を解くときには、メンタルな要素が強まる。解けると信じて、ついに正解に辿り着くためには、解けないかもしれないという「数学不安」に負けない精神的な強さや、自信が必要になる。

数学不安が強いと、解けないのではという不安や恐怖に圧倒され、肝心の問題に集中することができず、実力以下の成績しか取れない。

この数学不安は、就職や職業における成功を左右する。結果が不確定の、暗中模索の状況において、成功を信じてやり抜くに自信に関わる。

最近の研究で、幼い頃の安着が不安定だと、数学不安が強まる傾向が、性別や年齢、IQ に関係なく、みられた。

もちろん、数学が得意かどうかは、数的処理や推論、空間認知、ワーキングメモリなどの能力も関係してくる。愛着の安定性が数学の成績に関与する割合は、およそ二割だという。しかし、二割違えば、試験の合否も、その後の人生も大きく変わる。

問題を間違えたからといって、叱ったり、貶(けな)したりした場合、愛着が受けるダメージによるマイナスは、教えることによって得られる学力のプラスを帳消しにしかねない。

“「恋ふらむ鳥は」 (澤田瞳子著) ” 2023. 1. 8(Sun)

明けましておめでとうございます。今年も本ページに、宜しくお付き合い下さいませ。3か月振りの書き込みです。徒然なるままに(本ページの前タイトル名ですが)書いておりますので、お許しください。

この本は、額田王を主人公とした飛鳥時代の超長編小説です。大化の改新後から壬申の乱まで描いた作品です。中学校の歴史の教科書を読み返しながら、久しぶりにどっぴり漬かってしまいました。澤田瞳子氏の歴史洞察。静岡新聞に連載した「輝山」に次いで氏の本でした。中大兄皇子(天智天皇)、大海人皇子(天武天皇)、中臣鎌足(藤原鎌足)、大友皇子、そして、額田王の人物像。勿論、氏の見方ですが、人

間味に溢れ、面白かったです。皆様も是非お読み下さい。